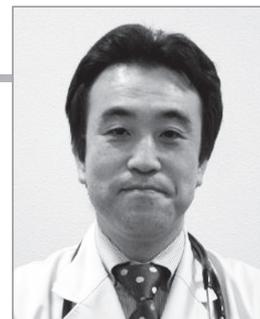


エディトリアル

東京ベイ・浦安市川医療センター 副管理者 木下順二



急速な人口減少，高齢化とへき地医療

筆者は平成11年から16年まで，地域医療振興協会 田子診療所に勤務していた。同診療所の所在地である静岡県賀茂郡西伊豆町は伊豆半島の西海岸に位置する。堂ヶ島海岸などの景勝地や，海水浴場，温泉，ダイビング施設など観光資源は豊かであるものの，かつての主産業であった漁業の衰退，観光業の不振，公共事業の縮小，それに代わる産業の欠如などもあり，静岡県内で2番目の速度で人口減少が進んでいる自治体である。

平成17年に合併した旧賀茂村を含む西伊豆町の人口推移などを表1にまとめた。国勢調査や県の人口推計によるデータと住民基本台帳による人口データに差があるものの，過去20年ほどで人口は約4分の3まで減少し，高齢化率は倍以上になった。診療所のあつた田子地区だけで見ると，平成12年以降の11年間で20%以上も人口が減少しており，北隣の安良里地区と比べても顕著である。国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の市町別将来推計人口」によると，平成47年(2035年)の西伊豆町の人口は6,636名と推計されている。

町の老齢人口に注目すると横這いから微減に転じており，要支援要介護認定者の数もあまり増えていない。この地域においては高齢者医療・介護の需要はある程度ピークに達しているのかも知れない。

表1 静岡県賀茂郡西伊豆町の人口等の推移

	町全体の人口	老齢人口 (高齢化率)	要介護要支援 認定者数(5月)	田子地区人口	安良里地区人口
平成2年	13,081	2,579 (19.7%)			
平成7年	12,453				
平成8年	11,962	3,180 (26.6%)			
平成12年	11,268	3,520 (31.2%)		3,273	1,568
平成17年	10,372	3,758 (36.2%)		2,878	1,438
平成20年	9,768	3,832 (39.2%)	595		
平成23年10月	9,224	3,787 (41.1%)	602	2,602	1,338
平成24年12月	9,436 (住民基本台帳より)		632		

(西伊豆町町勢要覧，町勢概況，住民基本台帳データ，静岡県年齢別人口推計などから作成)

高齢化の進行と人口減少によりへき地ではコミュニティー機能が維持できなくなったり、患者数の減少により既存の常設診療所の運営継続が難しくなるケースなども出てきている。

平成の大合併とへき地医療

いわゆる平成の大合併により地方自治体の数は平成11年4月の3,229(671市, 1,990町, 568村)から、平成24年10月には1,719(788市, 747町, 184村)にほぼ半減した。へき地の中には巨大な自治体に吸収され、その中の一地域となったところも多い。

自治体の合併は、へき地診療所の成り立ちに大きな変化をもたらす。行政サービスの平準化のため、それまで行われていた地域保健への取り組みを中止せざるを得なくなったり、行政の中心に意見が届きにくくなったりする場合もあるだろう。逆に、財政規模が大きくなることでへき地医療の充実が図られたり、人的支援が受けやすくなる場合もある。

これからのへき地医療のために

自治医科大学の原点はへき地医療にある。

へき地医療を取りまく環境は上記のように大きく変貌し、へき地医療は岐路に立っている。へき地で長く診療を続けている医師たちは、変わり行く地域の姿を見つめ、その変化に対応し、困難を乗り越えていくために地道で確実な取り組みを続けている。そのような取り組みにスポットを当て、へき地医療の最前線にいる方々にエールを送ろうと考え、今回の特集を企画した。

これからのへき地医療を充実させ、やりがいのある楽しいものとしていくためにはどうすればよいのだろうか。そのヒントを得ることができればと思う。

1. 総説 —へき地医療からの発信—

自治医科大学とへき地医療を取り巻く経緯、現在へき地医療に求められているもの、展望などについて、当協会の地域医療研究所所長であり当誌編集長の山田隆司が記した。

2. 限界集落を守る

静岡市井川地区は市中心部から標高1,184mの峠を越えて約2時間の山奥にあり、高齢化率50%を超える、いわゆる「限界集落」である。平成2年に赴任して以来20年以上の長期にわたり、この地区の医療を守り続けている静岡市国保井川診療所 山田 寛医師に地域の変化と、これまでの取り組み、今後の課題について執筆いただいた。

3. 自治体合併とへき地医療 —国保直診勤務医の一体験記—

神奈川県自治医科大学卒業医師が数多く勤務する旧津久井郡(相模湖町, 津久井町, 藤野町)は、平成18年から19年にかけて相模原市と合併し、人口70万人の巨大な政令指定都市の一部となった。人口約1万人の旧相模湖町にある内郷診療所は合併の前から老朽化が課題となっていた。行政の枠組みが大きく変化する中でも、診療所はその必要性が評価され存続されることが決まり平成23年1月に新築された。相模原市国民健康保険内郷診療所 土肥直樹医師に経緯をご紹介いただいた。

4. へき地診療所の統廃合

人口減少の進むへき地においては、診療所の統合や非常設化などの再編が検討されるケースが出てきている。しかし実現のためには診療所の機能縮小を求められた地区の住民に対して、統廃合が地域医療の発展につながるのだと納得していただくことが重要で

ある。岐阜県関市の事例について、関市国民健康保険津保川診療所 廣田俊夫医師よりご紹介いただいた。

5. へき地診療所での研修医育成

下北半島にある青森県六ヶ所村尾鮫診療所では、研修医が集い、複数体制での診療を行っている。診療所における教育や臨床研究、書籍出版など、へき地から発信する研修医養成のさまざまな取り組みについて、六ヶ所村国民健康保険尾鮫診療所の船越 樹医師と松岡史彦医師からご紹介いただいた。

6. 離島の小児医療を守り続ける

自治医科大学卒業で、義務年限終了後も八丈島に小児科医として長期赴任している町立八丈病院 藤井浩一医師は、島の小児科医には島でなくては経験できない楽しみがあり、「離島で子どもたちと共に歩む」と述べている。ユニークな立場での経験や八丈島の小児医療の特徴について記していただいた。

7. アメリカ オレゴン州のへき地医療教育 -The Cascades East 家庭医療研修プログラム-

アメリカ合衆国オレゴン州では、北西部のポートランド市周辺に人口が集中し、その他の地域は広大な辺境であり、州のほとんどがへき地と言っても過言ではない。中南部にあるクラマスフォールズ市にはオレゴン健康科学大学の附属診療所が設置され、へき地医療を志す24名の研修医が教育を受けている。診療所と教育プログラムの創設に尽力されたCascades East Family Practice CenterのJames Calvert医師に設立の経緯や研修医教育の実際などについてご執筆いただいた(翻訳付)。

参考URL

- 1) 西伊豆町ホームページ, <http://www.town.nishiizu.shizuoka.jp/>(町勢概要, 統計データのページなど)
- 2) 静岡県ホームページ 統計センターしずおか, <http://toukei.pref.shizuoka.jp/index.html>
- 3) 静岡県賀茂地域政策局:平成23年版「新南伊豆のすがた」VOL.12, <http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-510/shinminami/h23.html>
- 4) 国立社会保障・人口問題研究所:『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計), <http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson08/t-page.asp>
- 5) 総務省:市町村合併資料集, <http://www.soumu.go.jp/gapei/gapei.html>